

# カリキュラム等の 改善に係る提案

矢野構成員  
藤井構成員

ご提出資料



6. 3. 2016

## あはきカリキュラム改善案についての意見と提案

矢野構成員  
藤井構成員

### I. あはきカリキュラム改善に向けての基本的な考え方と付帯事項について

- 1) “あはき”の未来を切り拓くカリキュラムに再編成すること。すなわち、“あはき”教育の資質向上を推進できるカリキュラムにすること
- 2) “あはき”の未来を拓くカリキュラムの要件
  - ①他の医療職種、特に患者の治療やケアに関わる医療職種のカリキュラムの総単位数と同等、あるいはそれ以上であること。
  - ②“あはき”は医業の一部を担う「医療」であることの実体を実質化するために、その基盤となるカリキュラムを他の医療職種と同等かそれ以上にすること
  - ③臨床実習(あるいは臨地実習も含めて)の充実と実質化をはかること。そのためにも実習(臨床実習含む)を実習と臨床実習に分けること。
  - ④“あはき療法”を施術する上で安全性を確保でき、最低限の実務(治療やケア、生活指導など)が円滑に行うことができる診療能力の修得を担保するカリキュラムにすること。
- 3) 付帯事項
  - ① “あはき”教育の資質向上を継続的に行なうようにするために“あはき”の教育課程を5年毎に見直すこと。
  - ②臨床実習の確実かつ円滑な実施を図るため、各学校・養成施設は、実習施設の確保と教育体制の整備に努めるとともに、上記①の定めにかかわらず、平成32年度までの実施状況を踏まえ平成、33年度末までに所要の見直しを行うこと。
  - ③教員養成学科のカリキュラムの見直しを図り、教員養成の資質向上を進めること
  - ④あはき師に係る学校・養成施設のカリキュラムの在り方は、法18条の2に基づく学校の教育課程と関連付けながら検討する必要があることから、あはき教育の質の向上と重度視覚障害者の福祉の増進を図る観点から、同課程の在り方についても医道審議会で検討されることが望ましい。
  - ⑤現行の“あはき師”養成の専門学校教育は、昼間部と夜間部の2部制が行なわれているが、より“あはき師”教育を充実させるためには近い将来(平成33年度を目指す)に原則フルタイム制に移行するこが望ましい。(夜間部を開設する場合は4年制)

以上、あはきカリキュラム改善検討会におけるカリキュラム改正に対する基本的な視点や観点を記したが、以下にこれらの視点や観点に基づいた改正案を記す。

### II. あはきカリキュラムの提案

#### 1. 調整すべき授業科目

- (1) 実習と臨床実習を区分し、備考欄に臨床実習の最低単位数を明記すること  
実習は1単位 30時間、臨床実習は45時間  
臨床実習は4単位とし、充実を図る。  
あマ指課程 臨床実習 4単位以上  
はき課程 臨床実習 4単位以上

あはき課程 臨床実習 4 単位以上

(2) 専門基礎分野および専門分野の追加授業科目及び充実させる必要がある授業科目について

①保険の仕組みと職業倫理 1 単位追加

あマ指課程 1 単位 15 時間上 ⇒ 社会あマ指学

はき課程 1 単位 15 時間上 ⇒ 社会はき学

あはき課程 1 単位 15 時間上 ⇒ 社会あはき学

【解説】保険の仕組みについては現行の授業で既に行なわれていることから、職業倫理について教授する。

②運動学 追加 1 単位 30 時間

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 人体の構造と機能

はき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 人体の構造と機能

あはき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 人体の構造と機能

③あきの適応・禁忌マニュアル(仮称) 追加 1 単位 30 時間

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あマ指学

はき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床はき学

あはき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あはき学

④臨床生理学(病態生理学)(仮称) 1 単位 人体の構造と機能の 1 単位分を移動

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あマ指学

はき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床はき学

あはき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あはき学

【解説】人体の構造と機能の単位数から 1 単位分を臨床生理学とし、専門基礎分野から専門分野に移動した。

⑤触察解剖(仮称) 1 単位 人体の構造と機能の 1 単位分を移動

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あマ指学

はき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床はき学

あはき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 臨床あはき学

【解説】人体の構造と機能の単位数から 1 単位分を触察解剖とし、専門基礎分野から専門分野に移動した。

⑥経絡経穴概論・東洋医学概論の充実

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 東洋医学概論・経絡経穴概論

はき課程 2 単位 30 時間 ⇒ 東洋医学概論と経絡経穴概論

あはき課程 2 単位 30 時間 ⇒ 東洋医学概論と経絡経穴概論

【解説】「あマ指課程」は東洋医学概論と経絡経穴概論を 1 つの授業科目「東洋医学概論・経絡経穴概論」として行っている。一方、「はき」課程(あるいは何れかを含む課程)は「東洋医学概論」と「経絡経穴概論」は独立した授業科目として行っている。このことを踏まえると「あはき課程」においては、「はき課程」の「東洋医学概論」と「経絡経穴概論」において「あマ指圧課程」のそれを吸収できることから 10 単位とせずに 9 単位とした。

⑦OSCE 追加

あマ指課程 1 単位 30 時間 ⇒ 実習

はき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 実習

あはき課程 1 単位 30 時間 ⇒ 実習

【解説】OSCE の 1 単位増は単科の課程だけになっている。複数の課程の実習においては、重複する部分があることから改めて OSCE の 1 単位を増やすなくても OSCE の 1 単位を実施してもらうことは可能との判断により、複数の課程の実習では OSCE の 1 単位を増やすず、既存の単位数の中で OSCE の 1 単位分を実施する。

⑧基礎分野

基礎分野にコミュニケーション学を組み込み、医療人としての資質向上を図る。

⑨総合領域

総合領域で「あはき史」を組み込み、専門職としてのあはきの歴史的変遷を学修する。

2. 総合領域の見直し

総合領域の教育の目標は、「各学校がそれぞれの特色を発揮した教育を展開することによって、生涯を通じて地域を広く社会に応えることができる能力を養う」と記されているが、現実は主として国家試験対策授業が行なわれているようであることから、本来の教育の目標を達成するための教育内容にそった授業が確実に行なわれるようになんらかの指針を示すべきである。

**III. 改善案による資質向上について**

専門基礎分野において「運動学」を追加すること、専門分野において「臨床生理学」「触察解剖」「あはきの適応・禁忌マニュアル」を追加し、専門である「経絡経穴概論」と「東洋医学概論」を増やすことによって臨床における診療能力を向上させ、それらを臨床実習において展開することであはき師の臨床力の資質向上を図ることができる。

		あマ指	はり	きゅう	あマ指 はり	あマ指 きゅう	はり きゅう	あマ指 はり きゅう	備考
		単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14	14	14	14	14	14	14	1単位：15 時間
専門基礎分野	人体の構造と機能	12	12	12	12	12	12	12	運動学 1 単位分含 1 単位 30 時間
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	12	12	12	12	12	12	12	1 单位：30 時間
基礎分野	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	2	2	2	2	2	2	2	1 单位：30 時間
専門分野	基礎あマ指学 基礎はり学 基礎きゅう学	7	8	8	9	9	9	9	はきは東洋医学概論と経絡経穴概論各 1 単位増、あマは両方合わせて 1 単位増 1 単位：30 時間
	臨床あマ指 臨床はり学 臨床きゅう学	11	11	11	13	13	13	15	あはき適応禁忌 臨床生理学 触察解剖 各 1 単位分追加 1 単位：30 時間
	社会あマ指学 社会はり学 社会きゅう学	3	3	3	3	3	3	3	職業倫理 1 単位：15 時間 他は 1 単位：30 時間
	実習	10	12	10	15	13	15	19	OSCE 分 1 単位含む 1 単位：30 時間
	臨床実習	4	4	4	4	4	4	4	1 单位：45 時間
総合領域		10	10	10	10	10	10	10	あはき史含む 1 単位：30 時間
合計単位数		85	88	86	94	92	94	100	
総時間数		2385	2475	2415	2655	2595	2655	2835	